

千西一遇

第88号
発行
2021年
11月27日(土)
上田西高校校
新聞委員会
編集局

編集局長:藤田珠寿
新聞委員長:辺見咲良

豊田 葵
樋口 華
嶋田 晴佳

生徒会広報
山崎 優空

協力
奈良本 梓

第3回学校見学会開催

中学生の皆さん ようこそ上田西高校へ!

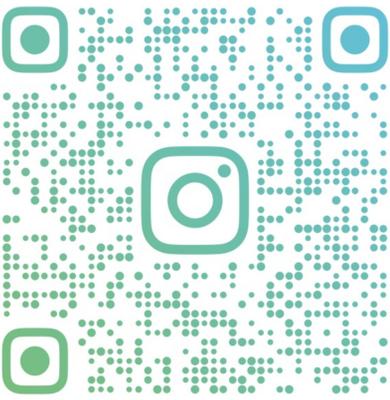
中学生、保護者の皆さん、本日は上田西高校の学校見学会にお越しいただきありがとうございます。新聞委員会編集局では、学校見学会に合わせて上田西高校を紹介する新聞を作成しました。紙面の都合上、残念ながら上田西高校の魅力の一部しか紹介できませんが是非お読みください。来年度、校舎内で会えることを楽しみにしています!

1人1人が輝けるステージを用意

上田西高校には生徒1人1人が輝けるステージが用意されています。部活動では仲間と共に切磋琢磨する経験を通して、自分自身を成長させることができます。今年3月には硬式野球部が選抜甲子園に出場するなど全国レベルの部活動も多くあります。国際教育では生きた英語に触れる機会が数多く用意されています。コロナ禍で以前のような留学などの活動は難しいですが、姉妹校等とオンラインでの交流などを盛んに行っています。生徒会活動では、自分の手で学校を動かす経験ができます。今年度は、生徒会役員主催で「学びプロジェクト」を開催しました。このプロジェクトは、生徒の課題意識からスタートし、学校外との繋がりも大切にしながら学習を進展させていくことを狙っています。学習面では特進コースを中心に土曜補習が開かれており、3年生では、1月に行われる大学入試共通テストに向けて来週から特別編成授業がスタートするなどの準備が進んでいます。



初出場した第93回選抜高等学校野球大会で力投するエースの山口謙作(当時)部活動のステージで練習を重ねた結果が全国の舞台でも発揮された。2021年3月22日阪神甲子園球場 写真撮影=奈良本梓



SEITOKAI UN

上田西高校生徒会 公式インスタグラム

上田西高校生徒会の広報担当が生徒会活動や学校の様子を投稿しています。是非ご覧になってみてください!



上田西高校では来年度からiPadを授業に導入します。そこで、ICT準備プロジェクトのプロジェクトリーダーである教務主任の宮崎貴紀先生に話を聞きました。

iPad導入で充実したICT教育

このように上田西高校では、生徒1人1人の目的意識によって様々な活動を行うことができます。(樋口華)

生に話を聞きました。iPadを主に使用するのは「探究学習」という来年度の1年生から正規のカリキュラムとして週1時間で行われる授業です。「探究学習」とは自分でテーマを見つけ課題解決のため取り組む学習のことで、1人1台端末

末を持つことにより課題発表の時に全員で同じ画面を共有できるようにします。「協同学習」効果的で他にも各教科の授業でも使うようになる可能性があります」と宮崎先生は話してくれました。また、各教科で使うようになることと今まではプリン

トを配ってやっていたことがiPadを通して出来るようになります。iPadを使う場面は「この場面と限定するのはなかなか色々な使い方をしたいと考えている」と宮崎先生。iPadを活用した授業では「先生が教える」ではなく「先生も一緒に探求する」ようにしていきたいと考えています。(嶋田晴佳)

今回初めて聞いた上田西高校の美味しいカレーの秘密。この記事を読んだ皆さんの高校入学後のお昼の楽しみが増えましたね!カフェテリアにはこの方を含め5人のスタッフの方々がおいしくお昼を用意してくれています。皆さん是非カフェテリアに行ってみてくださいね。美味しい料理を食べてみて下さいね。(藤田珠寿)



カフェテリアの人気メニューのカレー。調理担当者によって少しずつ味付けに変化があり、毎回楽しむことができる。定価は280円 写真撮影=辺見咲良

オススメ 魅力たっぷりカフェテリア

上田西高校にはカフェテリアという生徒と教職員に、出来たての食事を提供している施設があります。今回はカ

フェテリアで働く高橋龍之介さんに取材を行いました。この記事を通して上田西高校のカフェテリアの魅力をご紹介します。

えられたらと思います。高橋さんは、昨年9月からカフェテリアで調理を担当しており、なんとイタリアで修行を積み、料理や土地柄を勉強。帰国後、上田西高校のカフェテリアで料理を提供しています。



カフェテリアの調理を担当する高橋龍之介さん。写真撮影=辺見咲良

上田西高校先生紹介

プロフィール：①先生の名前 ②年齢 ③出身高校、出身大学 ④西高での教員歴 ⑤座右の銘 ⑥趣味 ⑦好きな食べ物 ⑧好きな異性のタイプ ⑨無人島に1つだけ持っていくとしたら？

「世界を知る男」 平井進悟先生

上田西高校には約80名の教職員が在籍しており、それぞれの専門分野で生徒たちを指導しています。今回は大勢の教職員の中から平井進悟先生、吉田玲央先生、松尾光国先生の3名を紹介します。体験授業でも積極的に上田西高校の先生と「コミュニケーション」をとってみたい！

今年度上田西高校3大行事(強歩大会・西高祭・クラスマッチ)を全制覇し3冠を達成した無敵の3年5組。このクラスの担任を務めるのが自身も上田西高校の出身である地歴公民科の平井進悟先生だ。レスリング部の顧問としても指導をしている平井先生は、小学校5年生でレスリングに出会い、学生時代はレスリングに没頭する日々を送っていた。『あと一歩でオリンピック』という場面まで登りつめた平井先生。全日本選手権3回優勝、アジア大会2位1回・3位1回、など数多くの大会

で上位の成績を残している。今現在は、日本のみならず、世界レベルでの戦いの経験を活かし、母校の教壇に立っている。そんな平井先生の座右の銘は「時を守り、場を清め、礼を正す」。この言葉は平井先生が担任を務めた事がある全てのクラスの学級目標となっていた。「時間を守ること、場を清めること、礼儀を正すことこの3つを守っていれば大抵の事は上手くいく」と信じている。平井先生は話した。これはレスリングでも普段の生活でも共通しているようだ。

指導する中で意識している事は「やることと言うものの理由と目的をハッキリ理解させるようにすること」だ。『人はメリットがある事でないと前向きに動けない、人に言われてやってもメリットが分からないまま』と続けた。レスリング部の目指すゴールは団体戦全国制覇、個人でのオリンピック選手の出場だ。平井先生の指導によりこの目標が達成される日が来るのはそう遠くないかもしれない。

(辺見咲良)



レスリング部の生徒を指導する平井先生 写真撮影=豊田葵

プロフィール：①平井 進悟(ひらいしんご)先生 ②43歳 ③上田西高校→拓殖大学 ④今年で8年目 ⑤「時を守り、場を清め、礼を正す」⑥アウトドア(キャンプや釣りなど) ⑦魚全般(生でも焼きでも) ⑧深田恭子 ⑨スマホ



サッカー部の生徒を指導する吉田先生 写真撮影=山崎優空

プロフィール：①吉田 玲央(とまたれお)先生 ②23歳 ③東福岡高校→専修大学 ④約7ヶ月 ⑤「笑う門には福来る」⑥カフェや温泉でゆっくりすること ⑦おばあちゃんのチャーハン ⑧三田友里佳(みたゆりか)アウンサー ⑨白尾先生(サッカー部監督)

「弾ける若さと笑顔」 吉田 玲央先生

今年度から地歴公民科、サッカー部のキーパーコーチとして新たに上田西高校の教員となり、持ち前のピチピチの若さと笑顔で生徒達の心を掴み、短い期間の中で生徒との深い信頼関係を築いている吉田玲央先生。そんな吉田先生の姿を紹介していく。吉田先生は、いつも笑顔を振りまきニコニコしている人に福が来るといふことわざ「笑う門には福来る」という座右の銘を持ち、毎日の生活で意識しているという。そんな吉田先生の癒しは「今日の先生の授業を楽しみにしています！」など生徒からの一言を貰う瞬間だそう。『やりがいを感じられ、癒されたい』と話してくれた。また、どのクラスの授業の始まりにも、教室に入室する際には必ず「こんにちはー!」と一言づつに話しかけ、生徒との何気ない会話を大事にしている。毎時間教壇に立つて話をしてみよう、ちょっとした何気ない会話からでも生徒のその日の状態や雰囲気分かるようになってくるそう。『結局挨拶を大事にするという所に繋がるんだよね』と笑顔で話した。『先に生まれると書いて先生。ただそれだけ。』

「先に生まれると書いて先生。ただそれだけ。」

(辺見咲良)

「主体性を重視する」 松尾 光国先生

上田西高校に勤務して6年。耳に優しい声を聞いて主に特進コースの国語の授業を担当している松尾光国先生。今回はそんな松尾先生を紹介する。松尾先生は学習指導をする上で「ある程度不親切に教えること」を意識しているという。『嫌なことがあったら嫌な気持ちになつた』という話を結びつけてほしくない。『嫌なことがあっても嫌な気持ちにならないという選択がある』と話す。自分の中で選択肢をもつことが未来を変えることになり、生きていく中でとても重要になるそう

「嫌なことがあったら嫌な気持ちになつた」という話を結びつけてほしくない。『嫌なことがあっても嫌な気持ちにならないという選択肢がある』と話す。自分の中で選択肢をもつことが未来を変えることになり、生きていく中でとても重要になるそう

(豊田葵)



特進コースの生徒に授業を行う松尾先生 写真提供=入試広報係

プロフィール①松尾 光国(まつおみつくに)先生 ②46歳 ③屋代高校→岡山大学 ④6年目 ⑤人生色々 ⑥読書・ツーリング・音楽鑑賞 ⑦蕎麦(おすすめの蕎麦屋さんは草笛) ⑧木内晶子 ⑨今昔物語集

ベルリン芸術祭の収穫

【対比】

西洋人 ↓ 日本人
異文化を感じる能力が不足している。感情的な次元で、何もしないままに受け入れる。正解な要素の操作の次元でもって、受け入れられない。感覚の開放性がない。

西洋と日本では、見ている方も、接する方も、理解の仕方が異なる。大きな差がある。

0.その...
1.その...
2.その...
3.その...
4.その...
5.その...
6.その...
7.その...
8.その...
9.その...
10.その...